

平成29年(2017年)3月期
決算報告
(連結ベース)

2017年5月17日

東芝機械株式会社

東芝機械

（成形機、工作機械、その他）

国内製造販売会社 2社

（工作機械、その他） 不二精機製造所
（その他） 東栄電機

国内販売・サービス会社 他 3社

（成形機、その他） 東芝機械エンジニアリング
（その他） 芝浦SEMTECK
（その他） 芝浦産業

赤い枠内は連結各社

（持分法適用会社） 1社

ニューフレアテクノロジー : 15.1%

（非連結子会社） 海外販売会社 9社

海外製造会社 3社

（成形機）

TOSHIBA MACHINE (SHANGHAI) CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING
(THAILAND) CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE (CHENNAI) PRIVATE
LIMITED

海外販売・サービス会社 6社

（成形機、工作機械、その他）

SHANGHAI TOSHIBA MACHINE CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE COMPANY, AMERICA

（成形機、工作機械）

TOSHIBA MACHINE (THAILAND) CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE SOUTH EAST ASIA
PTE.LTD.

（成形機）

TOSHIBA MACHINE (SHENZHEN) CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE HONG KONG LTD.

平成29年(2017年)3月期 決算概要(連結ベース)

2017年3月期より、海外連結子会社の決算期を統一

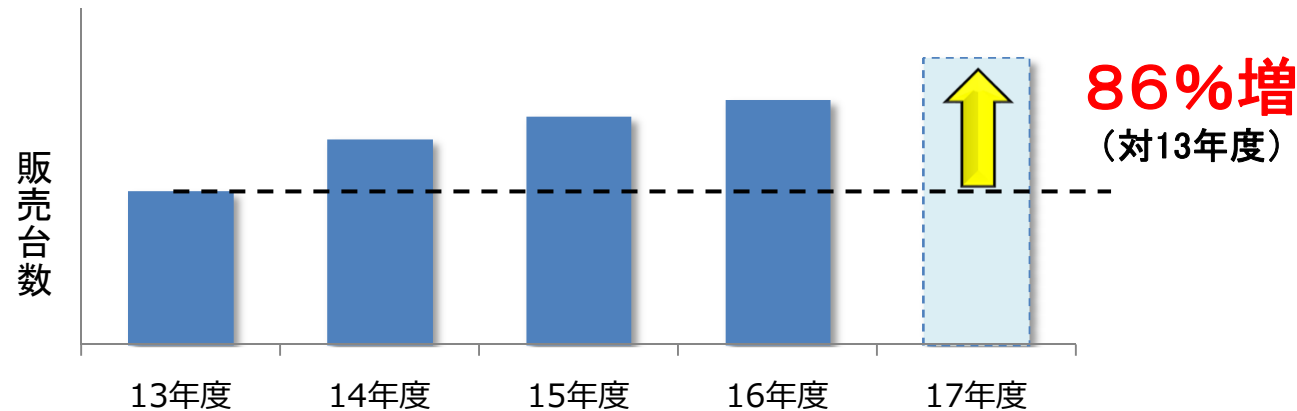
2017年3月期 : 2016年4月～2017年3月
(2016年1月～3月の損益は貸借対照表で調整)

2016年3月期 : 2015年1月～2015年12月

(単位:億円)

	2016年度 (H28年度)	2015年度 (H27年度)	増 減	2016年度予想 (2016/11/8公表値)
売 上 高	1,113	1,173	△ 60	1,100
営 業 利 益	45 (4.0%)	38 (3.2%)	7 (+0.8%)	42 (3.8%)
経 常 利 益	54 (4.9%)	50 (4.2%)	4 (+0.7%)	50 (4.5%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	18 (1.6%)	48 (4.1%)	△ 30 (△2.5%)	34 (3.1%)
受 注 高	1,170	1,200	△ 30	1,183
為替レート(USD)	112 円	120 円		100 円

- 12年9月の子会社化以降、インド市場の成長とリンクして**増収増益を継続中**。
- インド市場は当社グループにとって将来**有望な成長市場**であることから、**重点施策**を実行し、**油圧式射出成形機**の販売台数を**飛躍的に伸ばす**。



《重点施策》

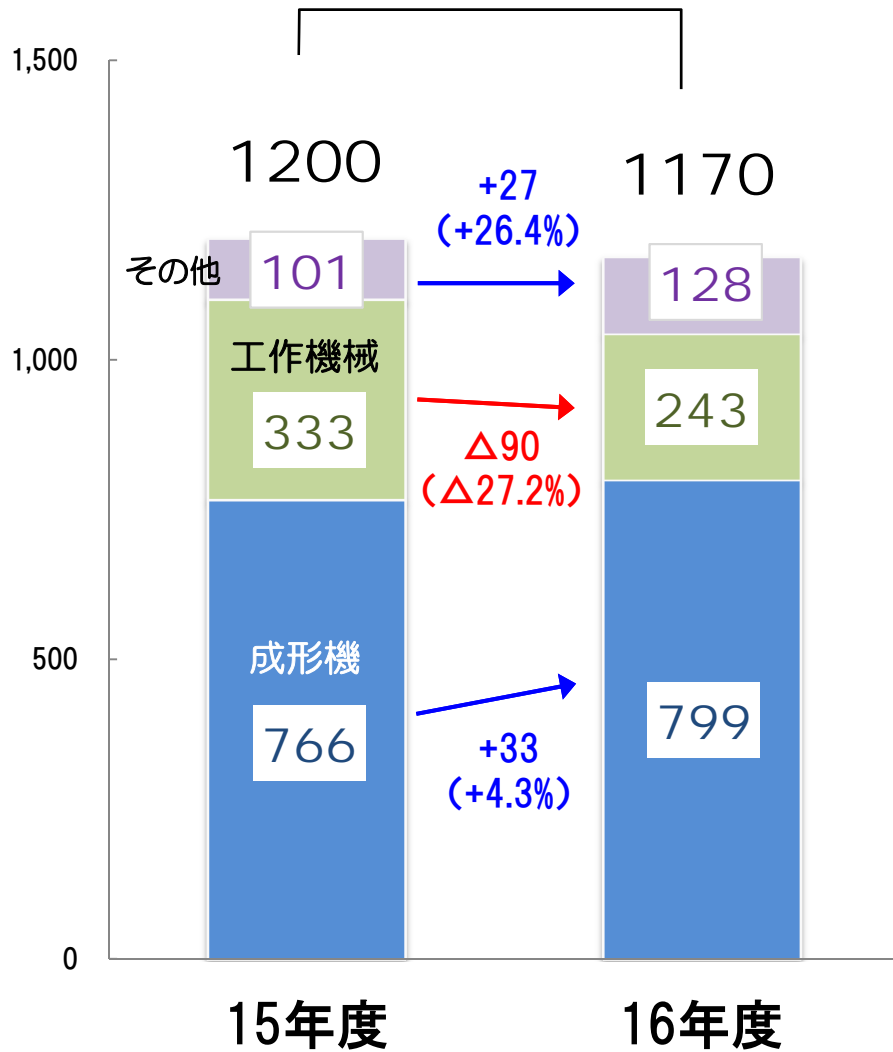
- **増産体制**への設備投資の加速
- 日本技術移植の**大型機**を17下よりインド市場投入
- 米国仕様機の生産体制準備完了 ⇒ **米国油圧機市場**への拡販
- 既存現法・印橋を活用した**東南ア・アフリカ向け輸出拡大**

※(TMIC)は買収時の利益計画に対し、洪水被害、高額紙幣問題などの新興国特有となる不測の外部要因により計画達成に遅れが生じ、当期にのれん減損償却を判断しました。

受注高(セグメント)

(単位:億円)

△30 (△2.5%)

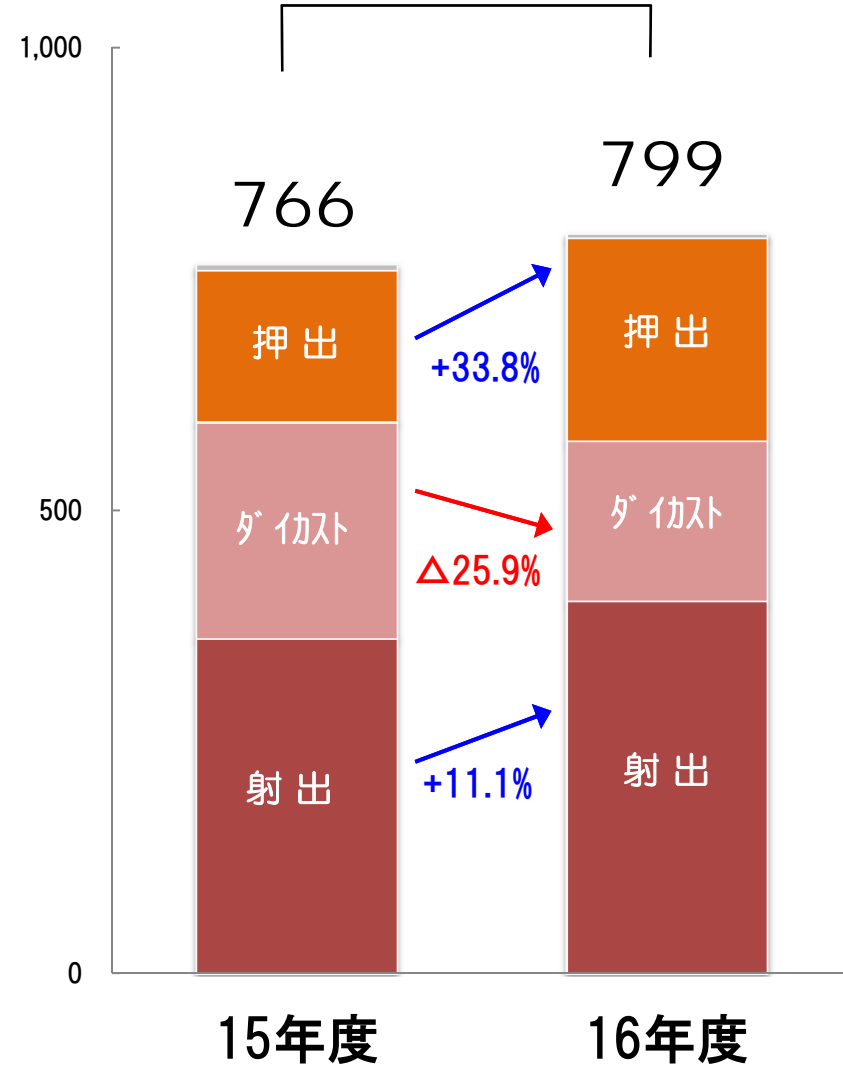


受注高(成形機内訳)

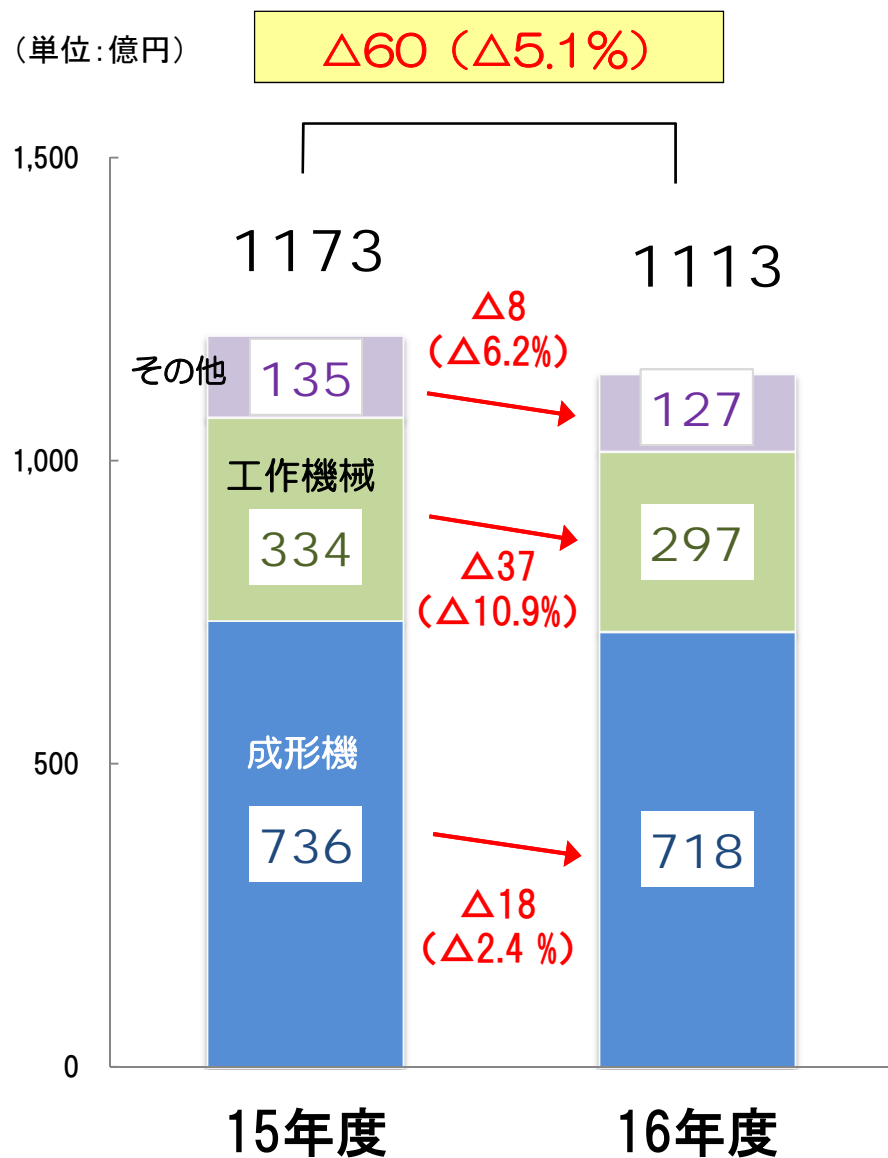
6

(単位:億円)

+33 (+4.3%)

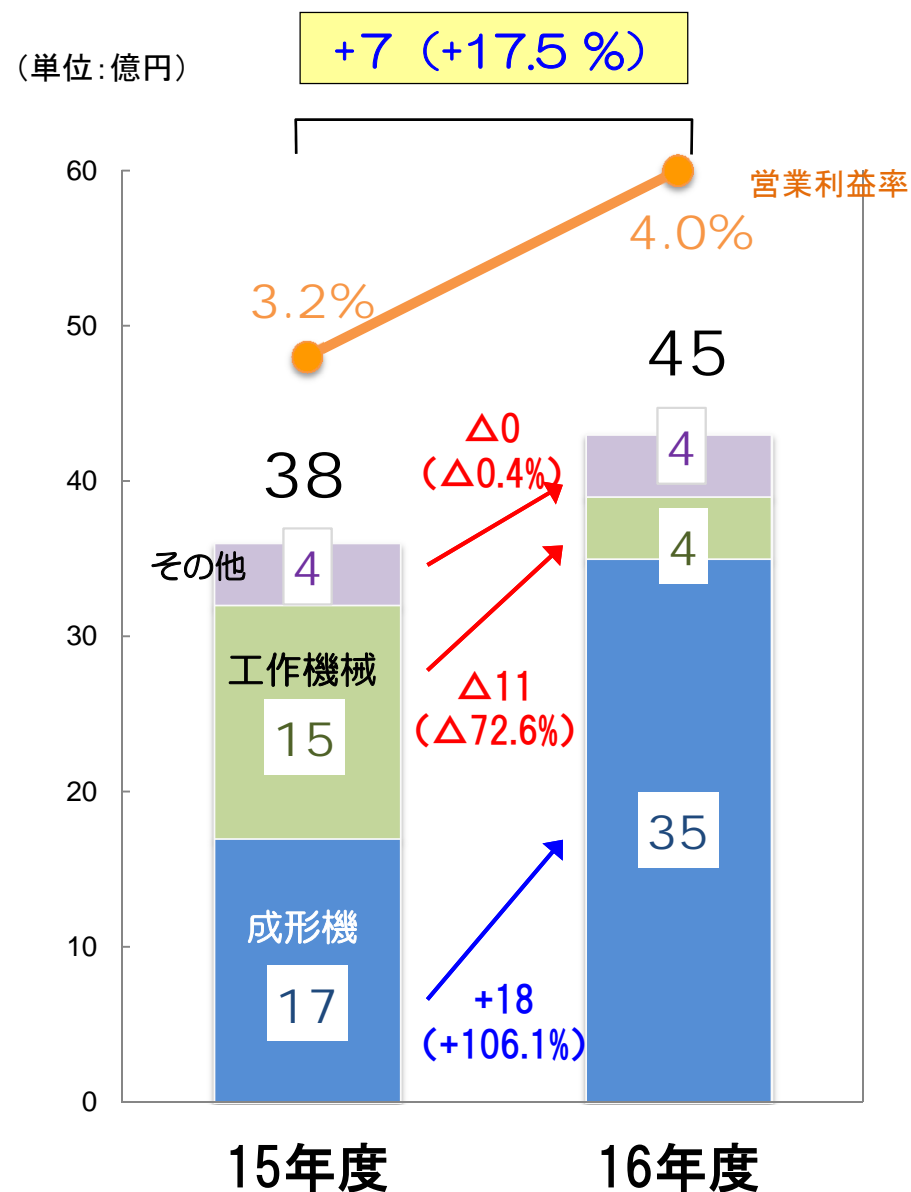


売上高(セグメント)



営業利益(セグメント)

7



(成形機)セグメント業績

8

(単位:億円)

(射出成形機・ダイカストマシン・押出成形機など)

	2016年度 (H28年度)	2015年度 (H27年度)	増減額	増減率
売上高	718	736	△ 18	△ 2.4%
営業利益	35	17	18	106.1%
利益率	4.9%	2.3%		

2016年度 業績要因分析



ポジティブ・ファクター

- 射出成形機は、北米・インド向けが堅調
- ダイカストマシンは、北米向け需要が堅調
- 押出成形機は、中国の二次電池向けが需要増
- 原価低減施策により利益率向上



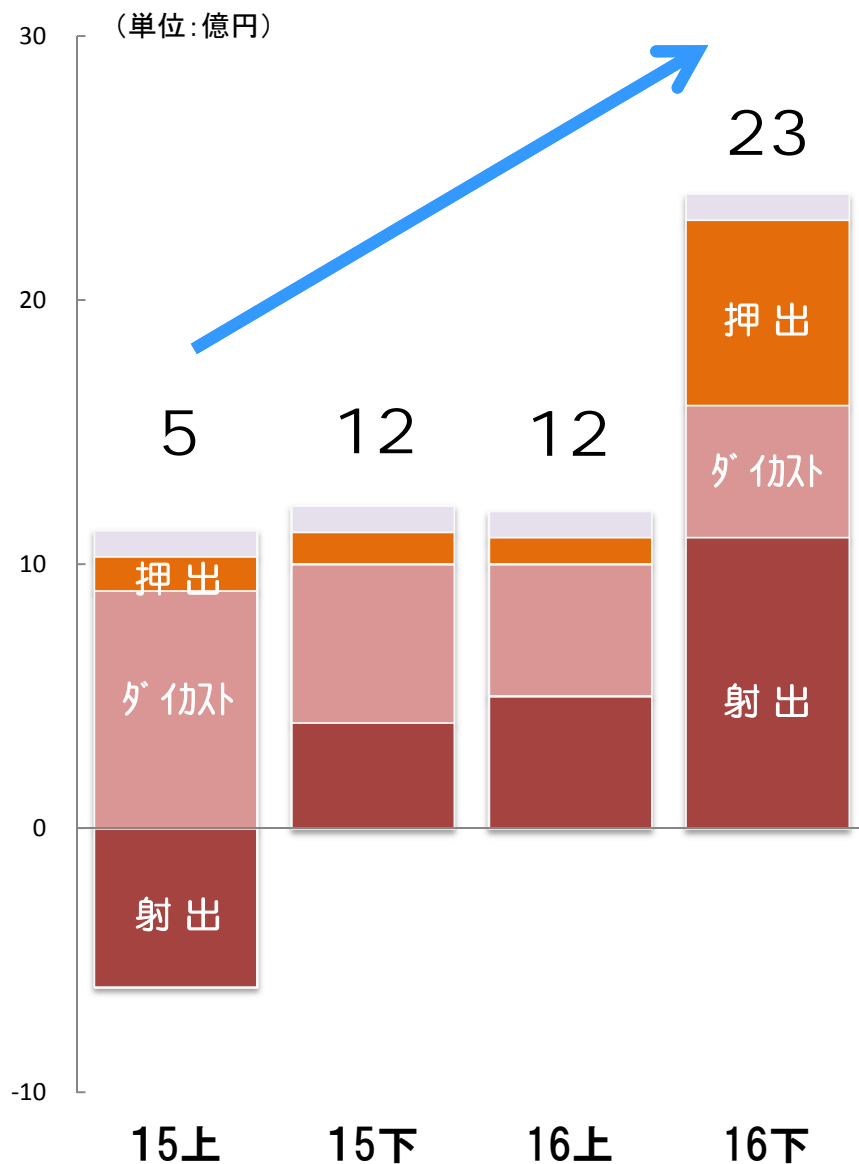
ネガティブ・ファクター

- 射出成形機は、国内で需要低調
- ダイカストマシンは、国内・アジアでの需要停滞
- 押出成形機は、国内の売上規模減少

(成形機) 営業利益

9

対前年同期比



《押出成形機》

◆ 売上規模の拡大

- 中国・二次電池関連の需要拡大

◆ 利益率の改善

- 大型特殊機の複数台生産による初期費用低減、調達CD効果発現

《ダイカスト》

◆ 売上規模の縮小

- アジア自動車産業の停滞

《射出成形機》

◆ 売上規模の拡大

- 北米、インド市場での規模拡大

◆ 利益率の改善

- 中大型機の売上台数増加
- 主力商品のマイナーチェンジによる原価低減
- 工場での生産整流化

◆ 費用の削減

- アジア市況を勘案し、タイ工場の一時的生産規模縮小、中国販売拠点の精査

(単位:億円)

(工作機械、精密加工機など)

	2016年度 (H28年度)	2015年度 (H27年度)	増減額	増減率
売上高	297	334	△ 37	△ 10.9%
営業利益	4	15	△ 11	△ 72.6%
利益率	1.4%	4.6%		

2016年度 業績要因分析



ポジティブ・ファクター

- 国内(自動車金型・航空機関連)向けは堅調
- 国内、中国でスマートフォン金型関連堅調



ネガティブ・ファクター

- 北米の資源関連の停滞継続
- 建機関連の停滞継続

(単位:億円)

(産業用ロボット、電子制御装置など)

	2016年度 (H28年度)	2015年度 (H27年度)	増減額	増減率
売上高	127	135	△ 8	△ 6.2%
営業利益	4	4	△ 0	△ 0.4%
利益率	3.2%	3.0%		

2016年度 業績要因分析



ポジティブ・ファクター

- 産業用ロボットは、国内・東アジア向けが堅調



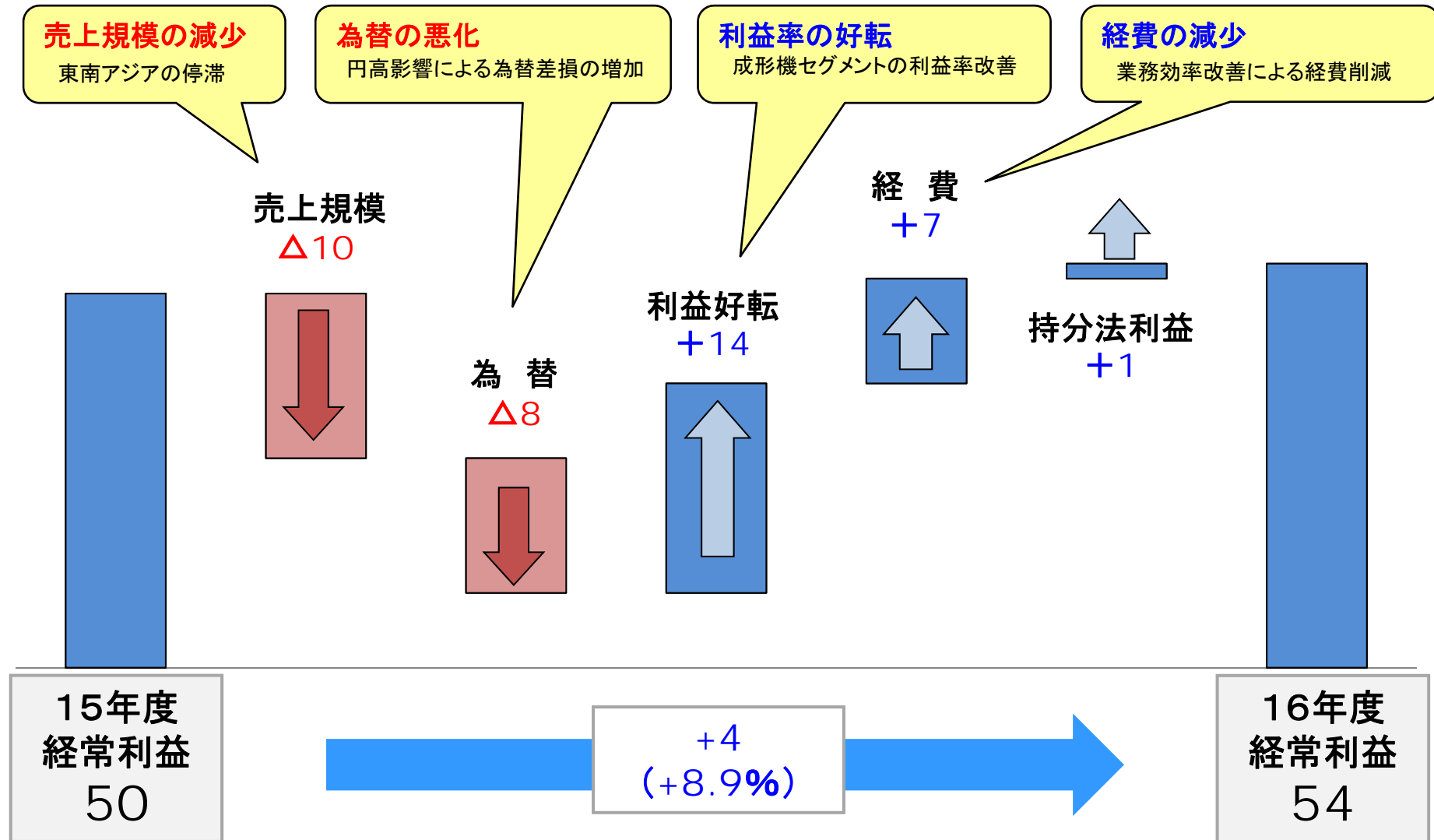
ネガティブ・ファクター

- ロボットメーカー間での競争激化

経常利益分析

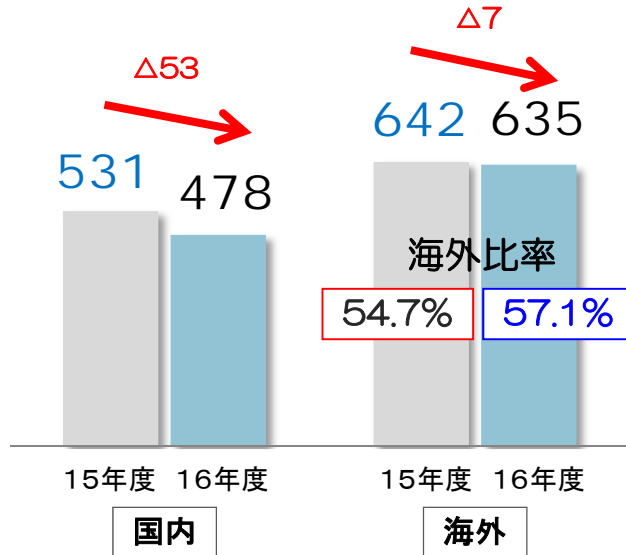
12

(単位: 億円)



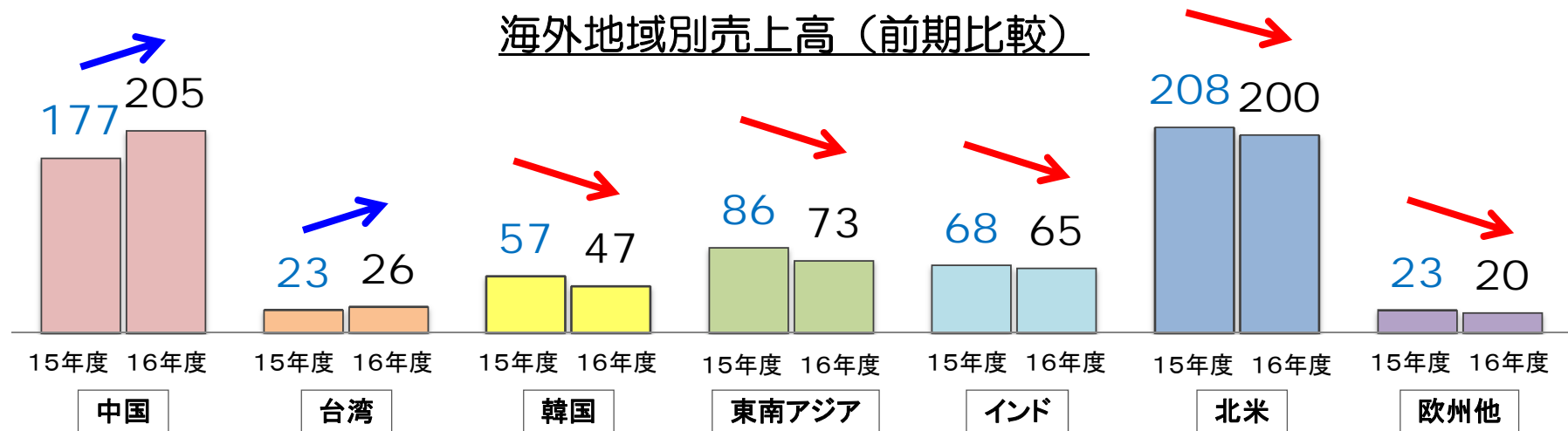
国内・海外売上高(前期比較)

(単位:億円)



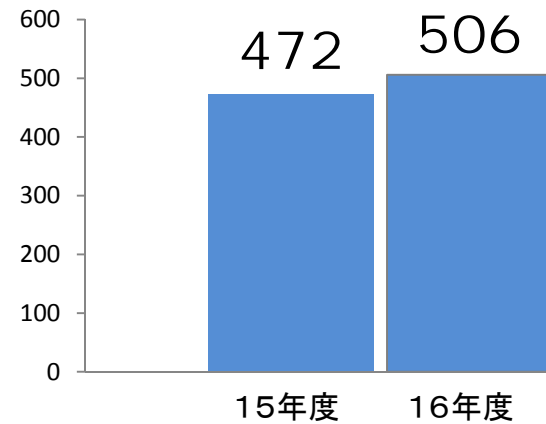
- 国内: 射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機減少
工作機械増加
- 中国: ダイカストマシン減少
工作機械、押出成形機増加
- 東南ア: ダイカストマシン、工作機械減少
- インド: 工作機械減少
射出成形機増加
- 北米: 工作機械減少
射出成形機増加

海外地域別売上高(前期比較)



仕向地が海外の売上高（セグメント別）

(海外比率) (64%) (71%)

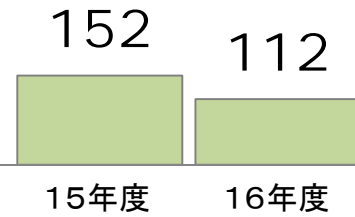


成形機

(単位: 億円)

セグメント別 海外売上

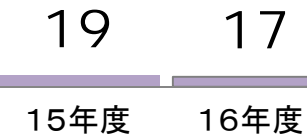
(46%) (38%)



工作機械

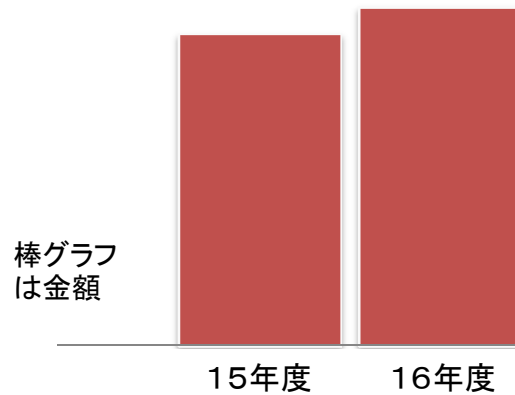
海外売上高比率
15年度: 54.7%
16年度: 57.1%

(17%) (17%)



その他

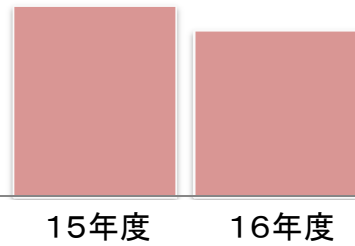
(海外比率) (73%) (76%)



射出

成形機BU別 海外売上

(67%) (70%)



ダイカスト

海外売上高比率
15年度: 64.1%
16年度: 70.5%

(40%) (58%)



押出

1. セグメントの総括

成形機セグメント : 国内・東南アジアで売上・利益減少、
北米・中国・インドで受注・売上増加

工作機械セグメント : 東アジアは堅調、北米は低迷

その他 : 中国で堅調

2. 当社で対処した施策

・総原価低減活動(前期比): 経費節減 7億円、VE/CD 6億円

3. 結果

全社 : 減収減益

成形機セグメント : 減収増益

工作機械セグメント : 減収減益

その他 : 減収減益

	16年度	15年度
売上高営業利益率	4.0%	3.2%
※ ROE (当期純利益/自己資本)	2.1%	5.1%
※ ROA (当期純利益/総資本)	1.2%	3.0%
損益分岐点比率	86.5%	87.7%

※ 期首・期末の平均を使用

貸借対照表

16

(単位:億円)

	2016年度末	2015年度末	増減
現金同等物	301	429	△ 128
売上債権	394	434	△ 40
棚卸資産	267	295	△ 28
有形・無形固定資産	219	224	△ 5
その他資産	224	201	23
資産計	1,405	1,583	△ 178
買入債務	261	251	10
借入金(短期・長期)	149	169	△ 20
その他負債	224	230	△ 6
負債計	634	650	△ 16
株主資本	737	896	△ 159
その他純資産	34	37	△ 3
純資産計	771	933	△ 162
負債・純資産計	1,405	1,583	△ 178

貸借対照表概要

- 資産(前期比 178億円減少)
現金同等物 128億円減少
のれん 19億円減少
- 負債(前期比 16億円減少)
借入金(短期・長期) 20億円減少
- 純資産(前期比 162億円減少)
自己株式取得 159億円減少
(東芝Gからの離脱)

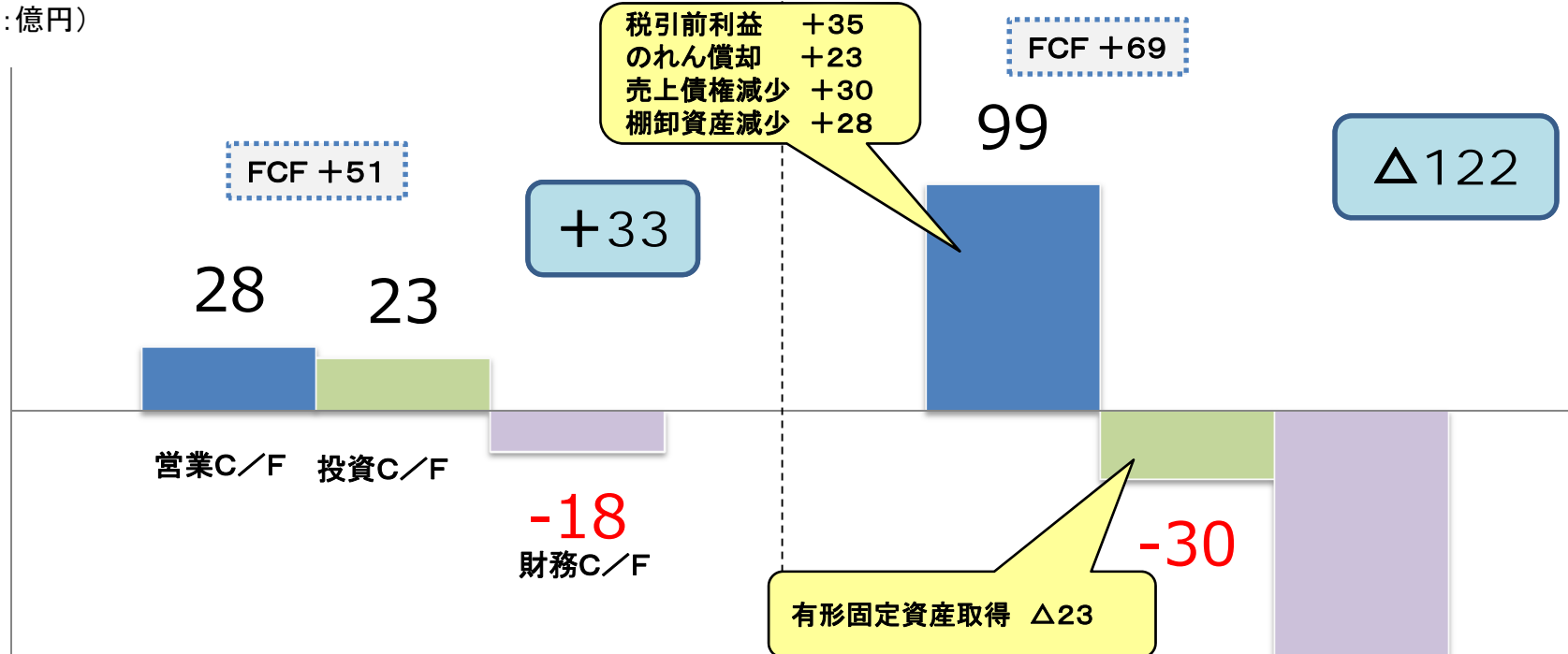
	17/3月末	16/3月末
自己資本比率	54.9%	59.0%
D/E比率	19.3%	18.1%
総資本回転率 ※	0.74 回転	0.73 回転

※ 期首・期末の平均を使用

キャッシュ・フロー計算書

17

(単位:億円)



	15年度	16年度
現金及び同等物 期首残高	402	429
営業活動によるC/F	28	99
投資活動によるC/F	23	△ 30
財務活動によるC/F	△ 18	△ 191
計	33	△ 122
換算差額 他	△ 5	△ 6
現金及び同等物 期末残高	429	301

平成30年(2018年)3月期

業績予想 (連結ベース)

配当予想

1. 当社を取り巻く外部環境

項目	ポジティブ・ファクター	ネガティブ・ファクター
成形機セグメント 射出成形機 ダイカストマシン 押出成形機	自動車・光学の伸長 自動車軽量化に対する需要増 電池関係大規模ラインの需要継続	東南アの停滞継続 東南アの停滞継続、米国政策動向 海外の低採算案件の増加
工作機械セグメント	自動車・航空機の伸長	北米の資源、建機関連の停滞継続
その他リスク		米国主導による円高 東芝ブランドの影響

2. 当社概要

(1) 当社施策

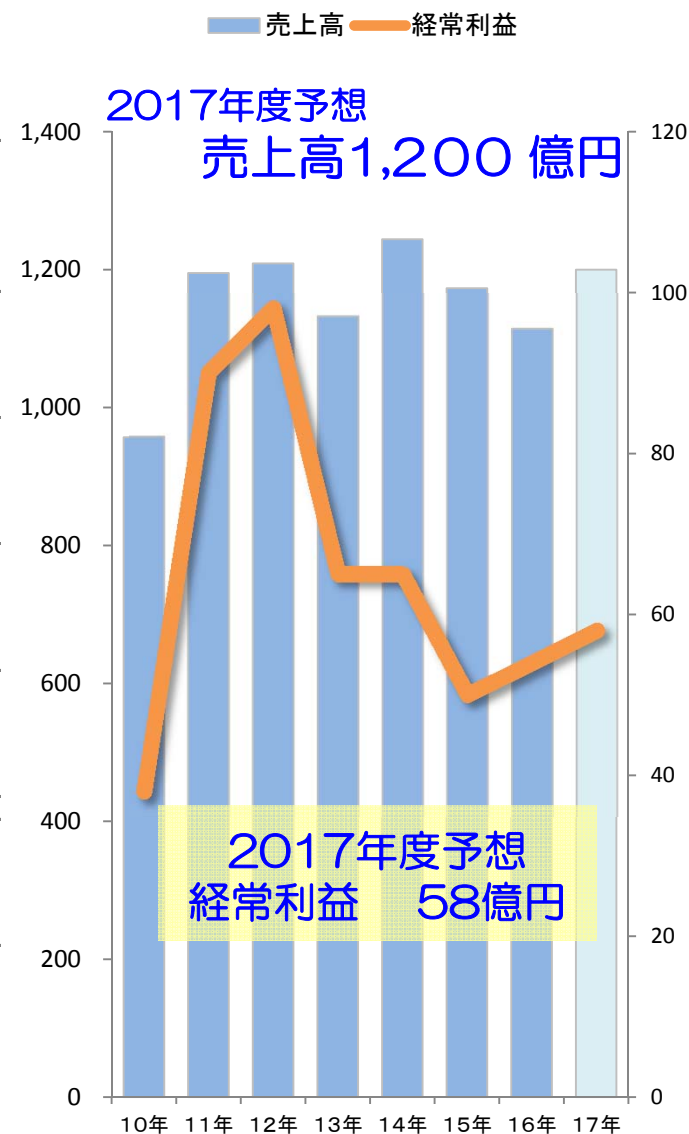
- 事業収益性向上 : 総原価の低減・収益確保、最適調達網の構築
- 経営体質強化 : 国内外工場の効率化、拠点の最適化
- ブランド力強化 : 市場ニーズにあった新商品の創出、独自ブランドの醸成

(2) 当社業績見込(前期比)

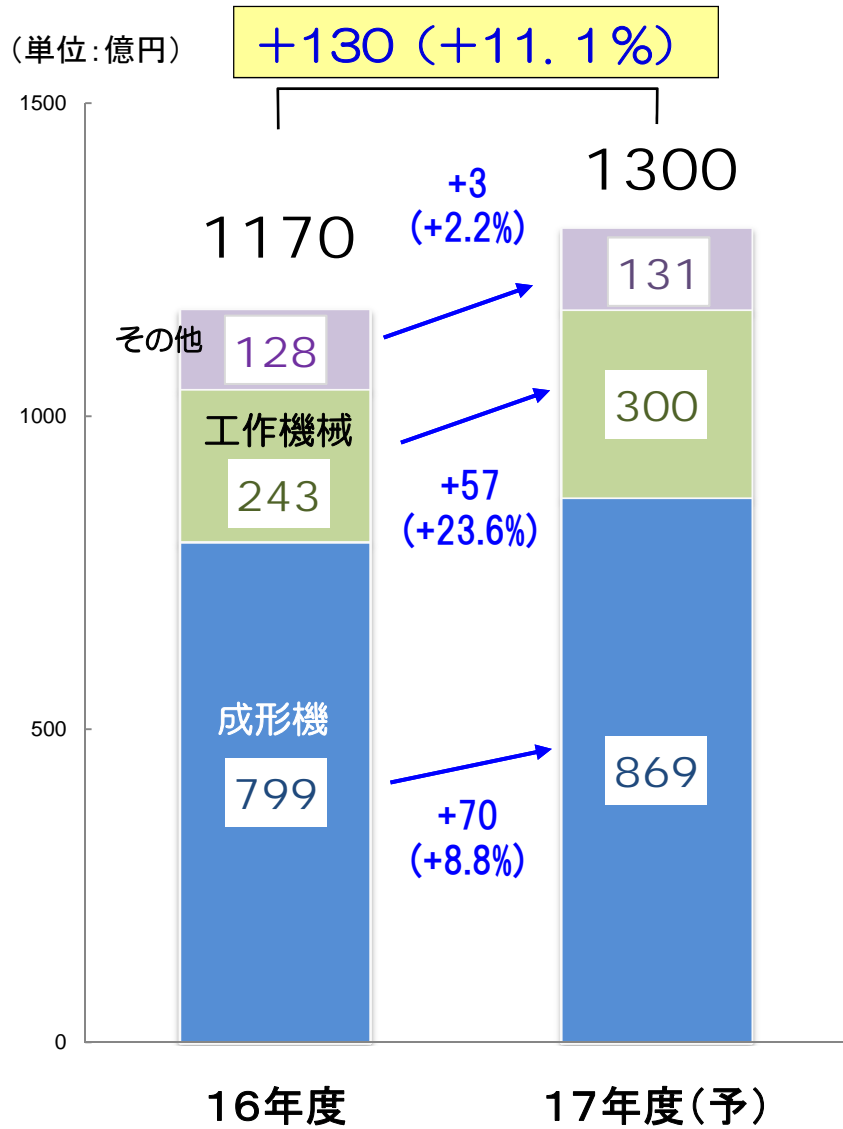
- 売上高 : 成形機・その他セグメントは増収、工作機械セグメントは減収
- 営業利益 : 伸長を見込む

(単位:億円)

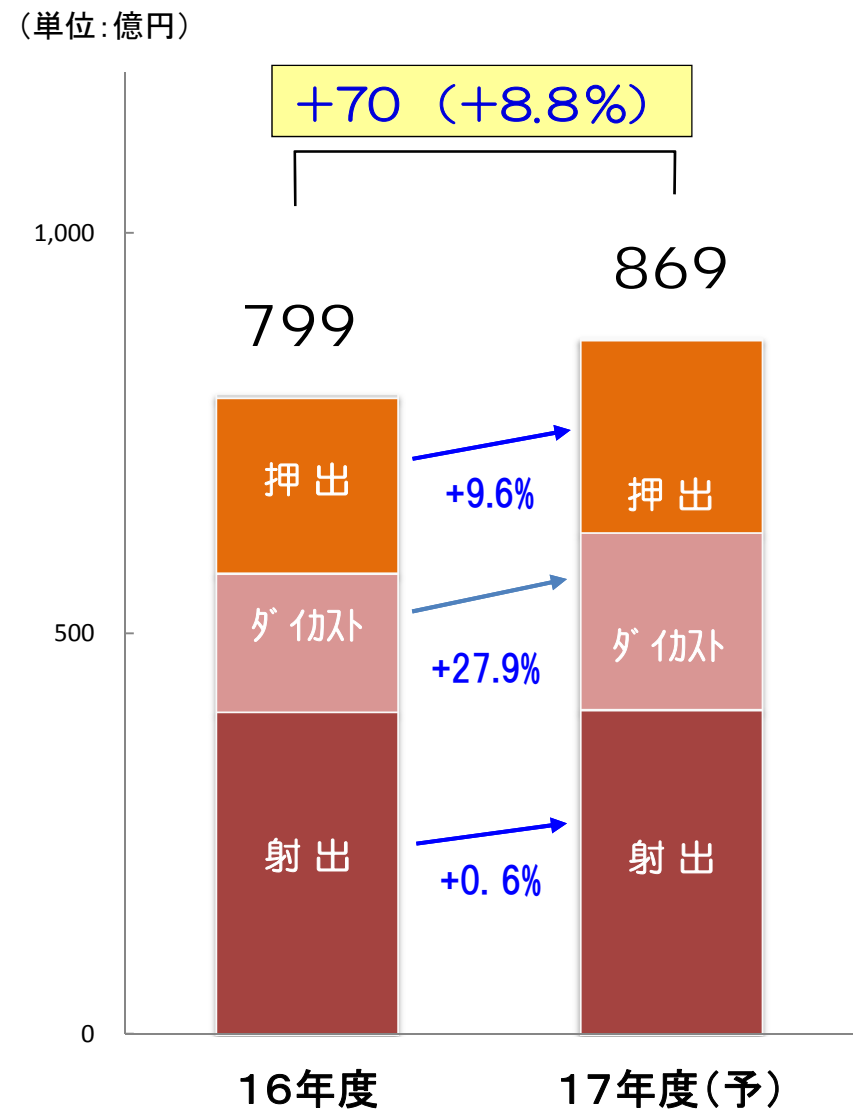
	2017年度 予想	2016年度 実績	増 減
売 上 高	1,200	1,113	87
営 業 利 益	52 (4.3%)	45 (4.0%)	7 (+0.3%)
経 常 利 益	58 (4.8%)	54 (4.9%)	4 (△0.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	42 (3.5%)	18 (1.6%)	24 (+1.9%)
受 注 高	1,300	1,170	130
為替レート(USD)	110 円	112 円	



受注高(セグメント)

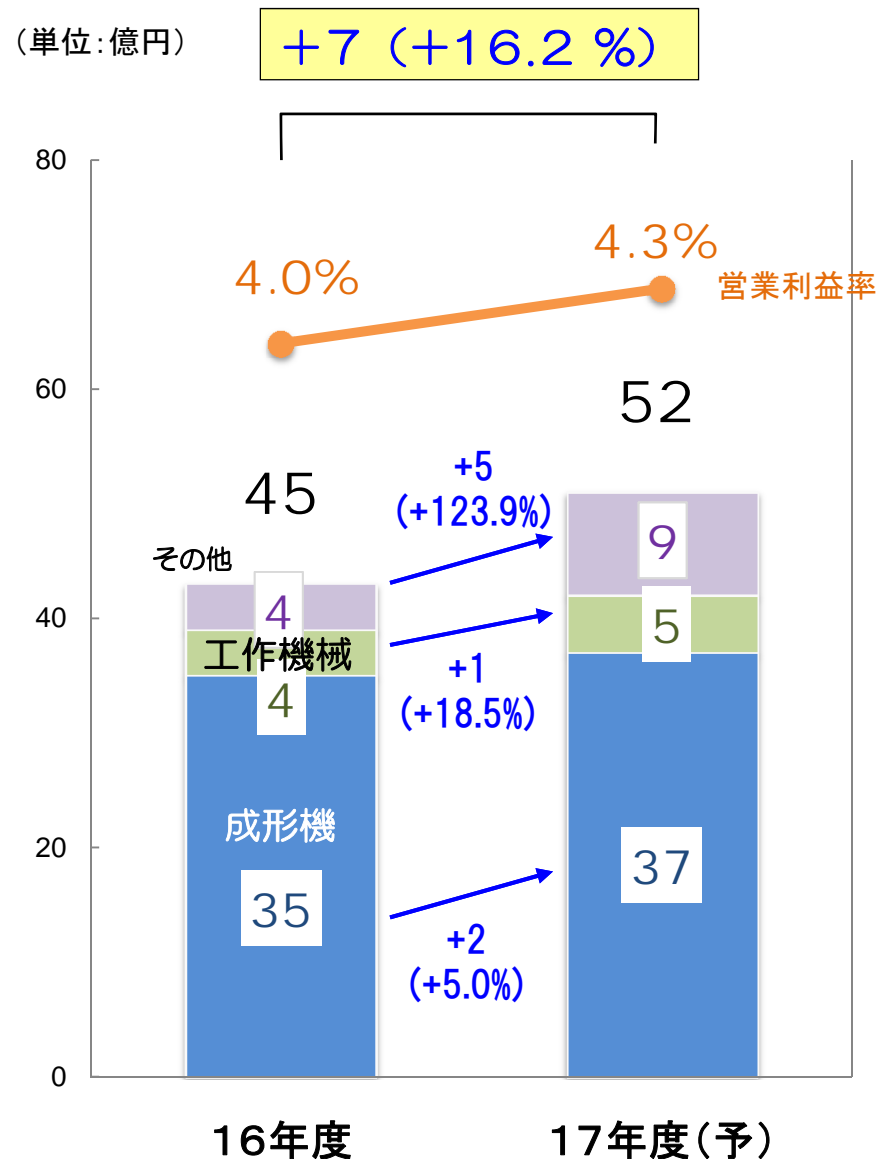
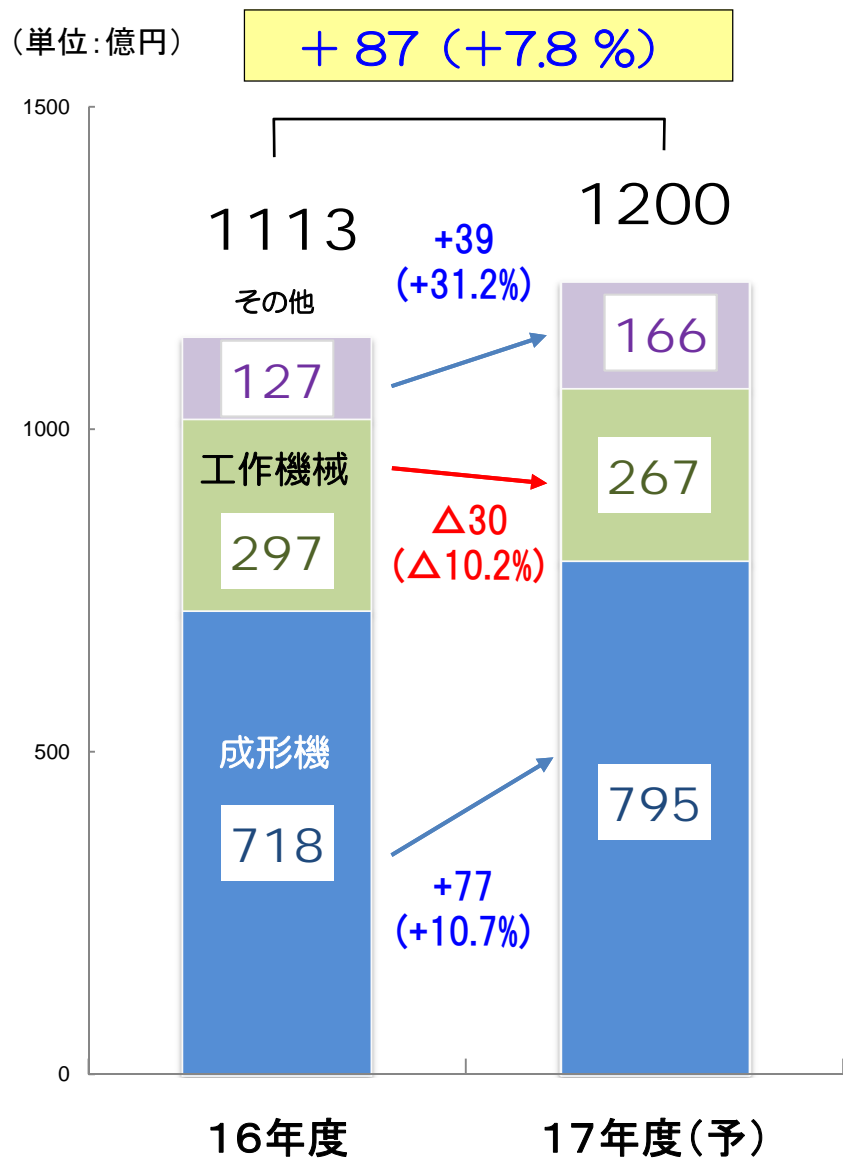


受注高(成形機内訳)



売上高(セグメント)

営業利益(セグメント)



(単位:億円)

(射出成形機・ダイカストマシン・押出成形機など)

	2017年度 (H29年度)	2016年度 (H28年度)	増減額	増減率
売上高	795	718	77	10.7%
営業利益	37	35	2	5.0%
利益率	4.7%	4.9%		

2017年度 業績要因分析

+

ポジティブ・ファクター

- 射出成形機の北米市場での油圧機本格投入、インド市場での日本技術移植の中大型機投入
- 射出成形機の生産効率向上及び最適地調達によるコスト減少
- 押出成形機のリチウム電池大規模ライン需要継続

-

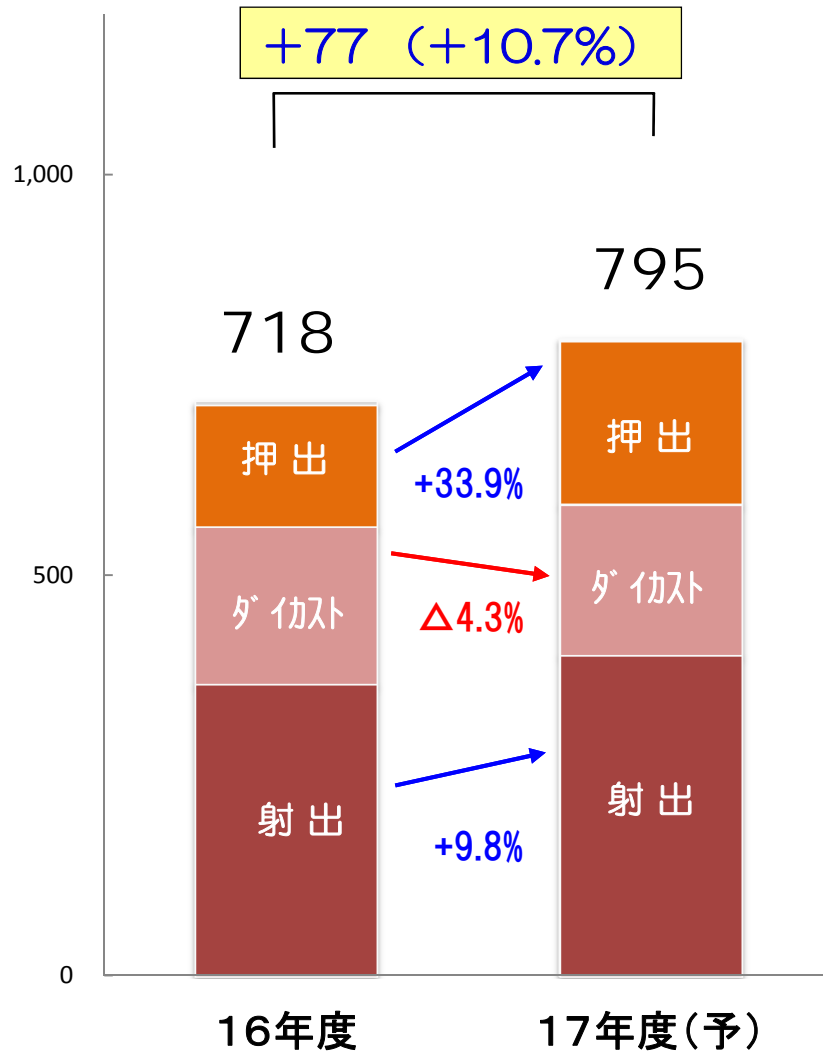
ネガティブ・ファクター

- 射出成形機、ダイカストマシンは東南アジアの自動車産業停滞
- 米国政策転換による自動車メーカーのメキシコ投資動向の不透明感
- 海外における競争激化による低採算案件増加

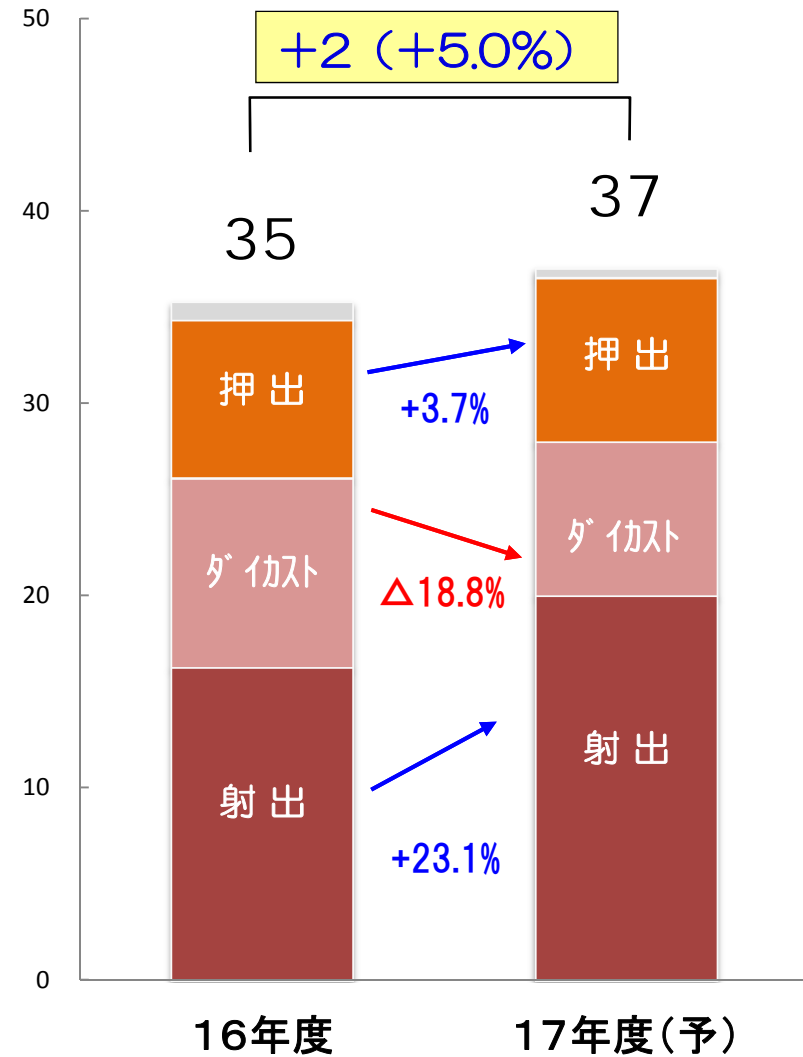
売上高(成形機セグ)

営業利益(成形機セグ)

(単位:億円)



(単位:億円)



(単位:億円)

(工作機械、精密加工機など)

	2017年度 (H29年度)	2016年度 (H28年度)	増減額	増減率
売上高	267	297	△ 30	△ 10.2%
営業利益	5	4	1	18.5%
利益率	1.9%	1.4%		

2017年度 業績要因分析



ポジティブ・ファクター

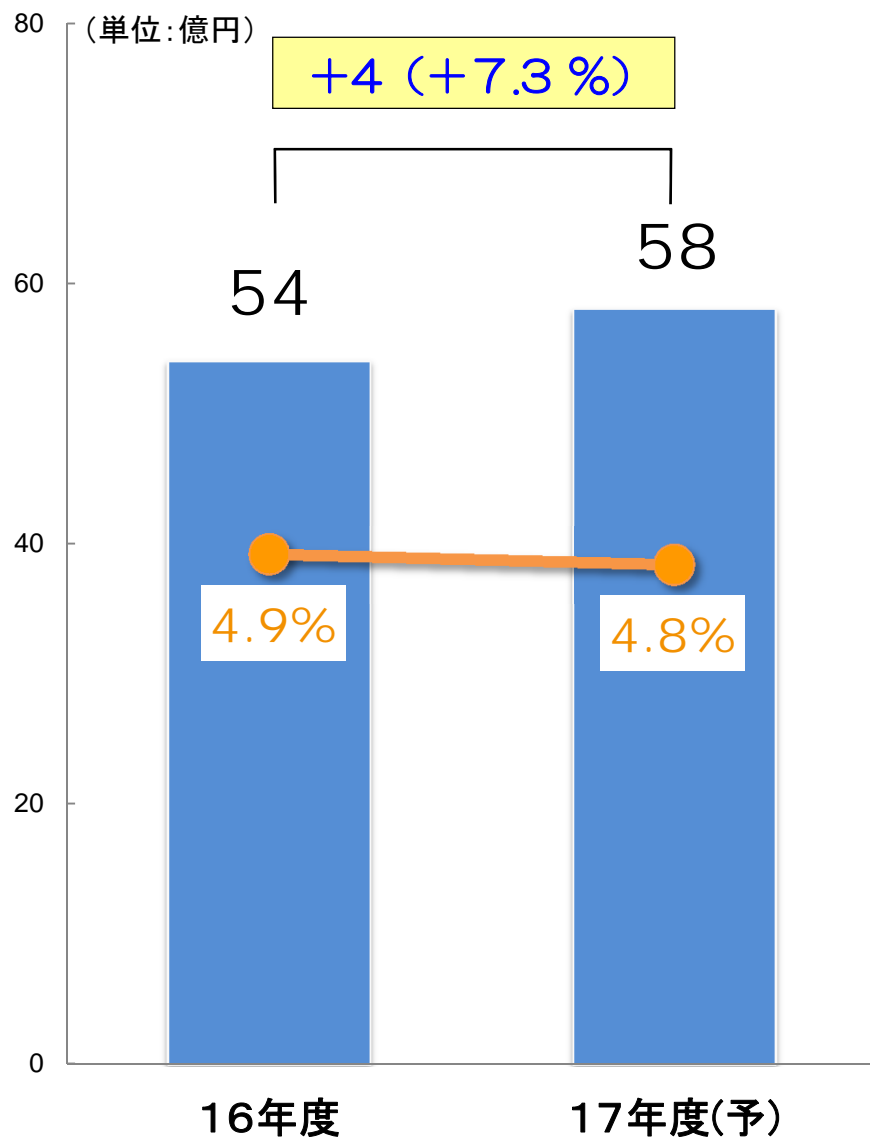
- 自動車金型・航空機関連の伸長
- 国内、中国のスマートフォン金型関連堅調維持
- 射出での原価低減ノウハウの横展開により利益率好転
- 新テクセンの効果発現により日米先進国向け増加による利益率好転



ネガティブ・ファクター

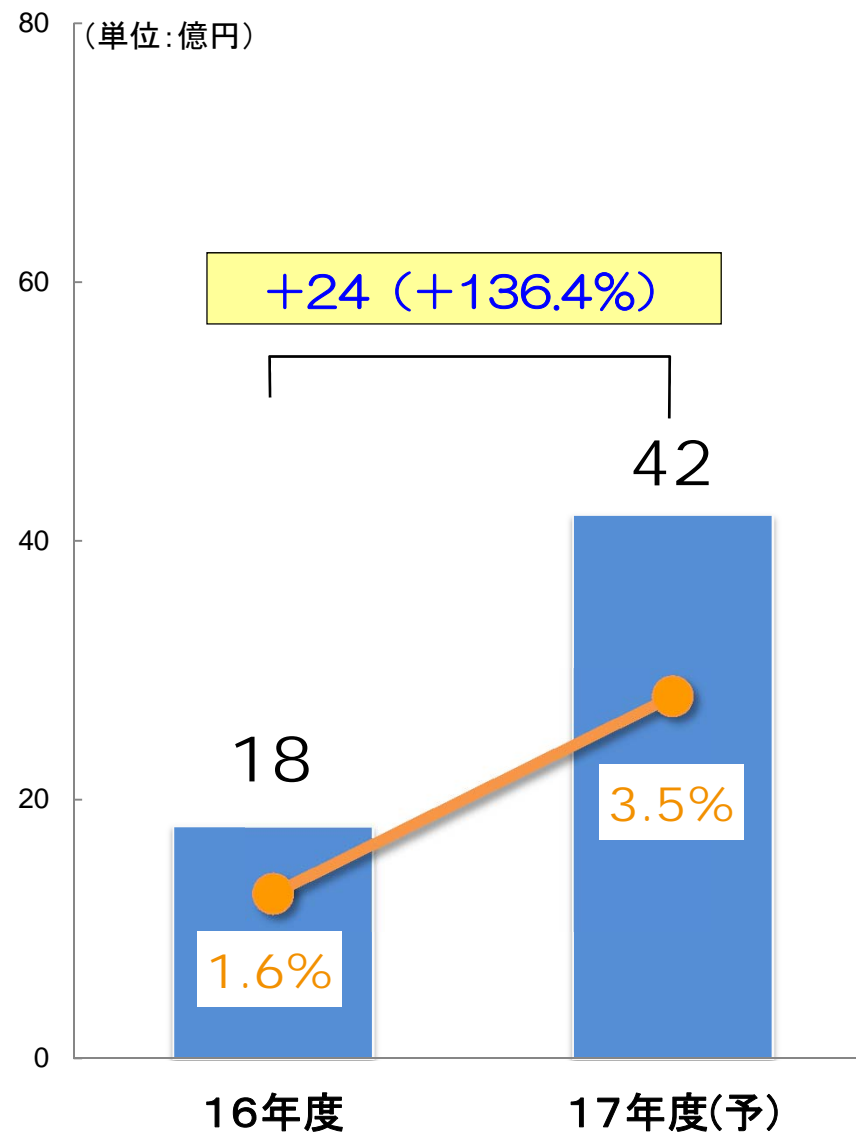
- 北米の資源関連の停滞継続
- 建機関連の景気回復遅れ

経常利益



親会社株主に帰属する 当期純利益

26



配当金の決定に関する方針

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。

利益剰余金につきましては、財務体質を強化しつつ、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に判断し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していくとともに、継続して株主の皆さまへの適正な利益還元を実施してまいります。

(配当の状況)

	第2四半期末	期 末	年 間	配当性向 (連結)
2016年3月期	6 円 00 銭	6 円 00 銭	12 円 00 銭	38. 0%
2017年3月期	6 円 00 銭	6 円 00 銭	12 円 00 銭	101 . 1%
2018年3月期 (予想)	6 円 00 銭	6 円 00 銭	12 円 00 銭	42. 8%

以 上

本資料に記載している将来の当社業績に関する見通しは、現時点での把握可能な情報に基づいて作成したものです。

実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、これらの業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

お問い合わせ先

東芝機械株式会社 総務部

TEL : 055-926-5141

FAX : 055-925-6501

URL : <http://www.toshiba-machine.co.jp>